

研究課題

# タブレット端末を利用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の育成

副題

～ICTを活用した表現力の向上について～

学校名

山口県立萩商工高等学校

所在地

〒758-0074  
山口県萩市平安古544

ホームページ  
アドレス

<http://www.hagi-ct.ysn21.jp/basercms/>

## 1. 研究の背景

本校では「生徒の主体性と実践力の養成」を目的に、地域と連携した実践的な教育活動を継続して行ってきた。2010年度には萩市国体推進室と連携し山口県萩市で行われた山口国体競技のWebサイトを作成、2011年度には萩市の観光サイトを地元の有志団体「萩 LOVE」(<http://www.hagi-love.com/>)と連携して作成し、この活動は「萩 LOVE ハイスクール」として今年度も継続して行っており、来年度で4年目を迎える。またこの活動が評価され、2012・2013年度には国立教育政策研究所教育課程研究センターからの指定を受け、「伝統文化」を萩 LOVE ハイスクールのコンテンツとして作成している。

(参考資料 <http://www.hagiweb.com/pdf/89.pdf>)

また昨今 21 世紀に必要とされる「21 世紀型スキル」においても表現力や問題解決能力など今までのインプット一辺倒の学力では推し量れない能力の育成が求められており、PBL(プロジェクトベースドラーニング)を行うことにより、21 世紀型スキルの育成が図られると考えられる。

## 2. 研究の目的

上記背景で述べた活動を行うにあたり出てきた課題の1つが、プレゼンテーションの改善と取材現場におけるコミュニケーションの改善である。生徒自身が取材したことや Web コンテンツ作成したことをプレゼンテーションする際に、どうしても PC を使用した紋切り型のプレゼンテーションになってしまい、視聴者である審査員(地域の関係者)にうまく伝えられない。また地域に取材に行った際に自分たちの作った資料の説明がうまくいかないことが多くあった。その課題を解決するために、プレゼンテーションや取材現場時タブレット端末を活用し、生徒の表現力を向上させていきたいと考えた。タブレット端末を用いたプレゼンテーションでは PC を利用した場合と比べ、より直感的で動きのあるプレゼンテーションを行うことができる。またタブレット端末を取材先に持って行き、作成したデジタル資料を見ながら地域の人々と話し合うことでより円滑なコミュニケーションが行える。

## 3. 研究の方法

3年生商業科の授業「総合実践」・「課題研究」でタブレット端末を用いた実践を行う。4人1グループのチームを作り、1チームにつき1つのタブレット端末を与えチームで共有してコミュニケーション活動やプレゼンテーション活動に行かす。年に3回あるプレゼンテーションでは1回目を PC によるプレゼンテーションにして2・3回目でタブレットを用いたプレゼンテーションを行い比較・改善していく。

#### 4. 研究の内容・経過

コミュニケーションにおいては1学期間タブレットを用いずに行った。外部とのコミュニケーション活動について説明すると、チームはクライアント（有志団体萩 LOVE）からの依頼を受け、地域の観光地、商店等と連携し取材を行った。まずは知識のインプットを行う活動を中心とした。

右の写真は、萩博物館の学芸員さんから話を伺っている様子。

生徒が質問を考え、取材をし、取材をしている様子も自分たちで役割分担して撮っている



また1学期はPCのみでのプレゼンテーションを行った。これは上記方法でも述べたように2回目以降にタブレットを使用した場合と比較するためである。



左の写真は、1回目のプレゼンの様子。PCを操作して作成したWebを見せ説明している。

前段に取材に協力してくれた外部関係者が審査員として参加している。

2学期以降タブレットを利用した活動を行っていった。タブレットを渡し、その活用についての説明は萩 LOVE ハイスクールのブログに萩 LOVEの方がアップしてくださっている。

<http://hagi-love.jugem.jp/?cid=10>

右の写真は、Macfanを観ながらiPadについて学んでいる様子。Macfanは毎月購入し、生徒がいつでも観られる環境にしている。

基本的な使い方やTipなど幅広く学べるところが良い。

取材時にはタブレット端末での撮影を行い、自分たちが作成した資料もタブレット端末を用いて説明する。

4人1グループのチームには役割分担がある。社長・経理・広報・技術の4つの役割があり、プレゼンテーション以外にタブレット端末の活用を行う。社長は取材時のノート使用や資料の説明・経理は会計ソフトまたは表計算ソフトで資金経理の管理、広報はブログ等の情報配信、技術はWeb作成などである。



## 5. 研究の成果

プレゼンテーションにおいては、タブレットの特長である拡大・縮小を最大限活かし自分たちが伝えたい内容について大きく見せたり、小さくして全体を俯瞰して見せたりという工夫を行った。

右の写真は、1人がiPadを操作しながらもう一人が話している様子。チームプレゼンテーションのためリハーサルを綿密に行い、呼吸を合わせることも必要となる。iPadでのプレゼンは拡大・縮小をスムーズに行うため、通常のプレゼンよりもより呼吸を合わせる必要があるであった。

プレゼンテーションを見た審査員からも「分かりやすく丁寧な発表だった」や「文字や写真がはっきりと分かり見ている気持ちよかった」などタブレットでの表現を十分に生かしたプレゼンテーションであったことが伺えた。



左の画像は完成したWebサイト。10人の幕末の人物を調査研究し（博物館や図書館、縁の地への取材などのフィールドワーク）開発、改善を重ねた結果できたものである。

また取材時でも iPadでの撮影やその撮った写真を取材先の人に見せてWebについて相談したりするなど、スマホでは小さくてうまく出来ず、PCだと持ち運びにくい写真を入れられないといけないという手間を省け、非常にスムーズなコミュニケーションができた。

プレゼンテーションやコミュニケーションは、ただ見栄えが良かったり、言葉遣いが良かったりするだけでなく、「何を伝えるか」、「なぜ伝えるのか」「どう伝えると分かりやすいのか」を何度も考えて漸く表出してくるものが大切である。それをタブレットというツールを使うことで最大化していくことができたと感じた。

## 6. 今後の課題・展望

今年度できなかったことの1つに、スタイラスペンを使ってプレゼン中に書き込んだり、図示したりすることがある。より効果的で伝達力の高いプレゼンテーションやコミュニケーションを行うために、スタイラスペンの活用を積極的に行っていきたい。スタイラスペンには種類がたくさんあり、その検証が必要となるが生徒にまずは使わせてその後どう違いがあるかなどを調査研究するのも生徒のICT活用能力を高める方法になると考える。

また現在のネットワーク（回線）がフィルタリング等かかりすぎていて利用しづらいため、回線をどう改

善するかも今後の大きな課題である。セキュリティをある程度保ちつつ利便性をあげて生徒の ICT 教育環境を良くしていきたい。環境が良くなれば出てくるアイデアや方法論も良くなっていく可能性があるため、環境を高める活動は地道に進めていくことが大切だと考える。

## 7. おわりに

今年度初めて iPad を授業に導入しプレゼンテーションやコミュニケーションについて実践しながら検証してきたが、生徒たちは予想以上にタブレットの利活用についてはスムーズに行い、指導する教員の情報リテラシーの方が心配であった。教員も積極的に ICT の活用を行うためには生徒の ICT 教育環境を整えとともに教員の ICT 教育環境も整備していく必要があると感じた。

教室を ICT 化するためには費用がかかるが、少しずつでも環境を整備していくことが教員の ICT 教育力を高めることにつながっていく。

学校全体では ICT 教育に対する認識や必要性が低く、「授業の情報化」はあまり進んでいない。学校全体で「授業の情報化」を進めることが生徒の意識を高め 21 世紀型スキルを習得する際の手助けになると考えている。

また ICT 教育を進めるに当たっては、アクティブラーニングや反転授業の研究も必要となってくる。今回は PBL での研究であったが、次年度からはアクティブラーニングや反転授業でのタブレットの活用も視野に入れて授業計画を進めていきたい。